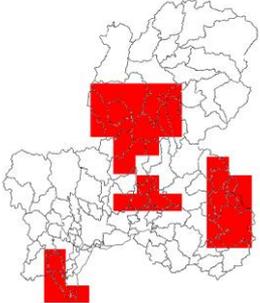


ホソバテンナンショウ	<i>Arisaema angustatum</i> Franch. et Sav.	絶滅危惧Ⅱ類
		サトイモ科
選定理由	やや広範囲に分布するものの、個体数が減少している。	写真(岐阜大学教育学部標本室) 
形態の特徴	葉は2個、偽茎部は葉柄部よりかなり長い。葉身は鳥足状に分裂する。小葉は7-17個あり、長楕円形あるいは披針形、細かい鋸歯が見られることがある。花序柄は葉柄部と同長か少し長い。仏炎苞は緑色で、縦に白い筋がある。舷部は卵形から広卵形。花序付属体は有柄、基部はやや太くて上部へと次第に細くなり、緑色。	
生態的特徴	林縁や林床に生育する。4-5月に葉と花序が出現する。	
分布状況	関東地方から近畿地方まで分布する。岐阜県では飛騨地方南部と美濃地方に見られる。	
減少要因	開発などによる生育地の破壊。	
保全対策	生育地の保全。	
特記事項		
参考文献		
		

文責: 高橋弘